

# レイナの夜の日記

レイナは学生の頃より作家を志し、大学は有名私立の文学部に入学した。

作家コンクールやインターネットなど活躍の場所を模索しながら作家の道を歩んできた。

官能も書く。

29歳になり、生活も安定してきた頃、

夜の方が寂しくなってきた。

ある日、近くの公園へ行くと

ブランコに男性が一人。

星空を見つめる彼は

レイナに声をかける

ホテルへ行きませんか？

レイナの夜の輝きが始まった。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)